

令和3年度

堺市二次医療圏 「地域医療構想」の進捗状況

大阪アプローチ

圏域ごとのデータに基づく分析をもとに
公民のイコルフットイングで
病床機能分化の議論を進める

Contents

1 堺市二次医療圏の概要

- (1) 今後の医療需要の見込み
- (2) 医療体制の概要
- (3) 病床機能分化の状況

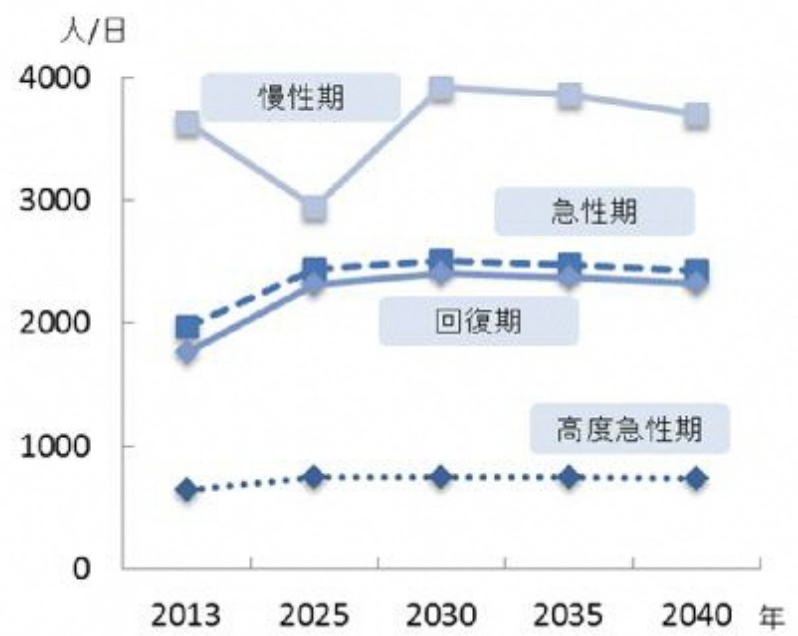
2 将来のあるべき医療体制に向けて

- (1) 2025年に各病院が検討している医療機能・病床機能
- (2) 2025年に各病院が検討している病床機能のまとめ

1 堺市二次医療圏の概要 (1) 今後の医療需要の見込み

堺市二次医療圏では、今後、2030年をピークに医療需要(特に、急性期と回復期)が増加する見込みである

● 病床機能ごとの医療需要の見込み(総計)



● 基準病床数の見込み



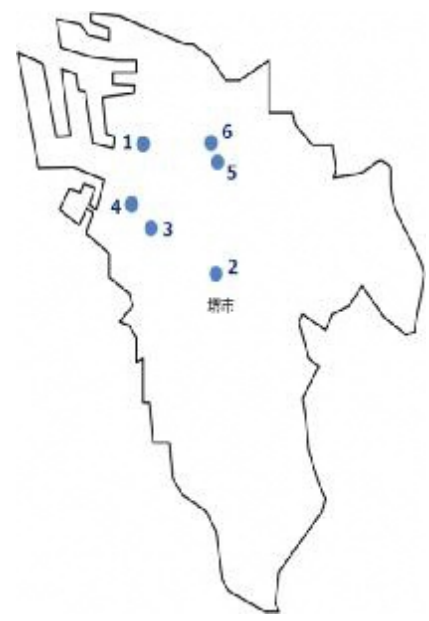
基準病床数の将来見込みでは、2030年においても、既存病床数に達しない見込み。

	2013年	2025年		2030年		2035年		2040年	
	(人/日)	(人/日)	対2013年	(人/日)	対2013年	(人/日)	対2013年	(人/日)	対2013年
高度急性期	646	744	1.15	749	1.16	739	1.15	731	1.13
急性期	1,973	2,440	1.24	2,513	1.27	2,476	1.26	2,428	1.23
回復期	1,763	2,314	1.31	2,408	1.37	2,373	1.35	2,323	1.32
慢性期	3,631	2,945	0.81	3,913	1.08	3,857	1.06	3,697	1.02
合計	8,013	8,443	1.05	9,583	1.20	9,445	1.18	9,179	1.15

1 堺市二次医療圏の概要(2) 医療体制の概要①

堺市二次医療圏では、新公立病院改革プラン補足調査対象病院が1病院
公的医療機関等2025プラン対象病院が5病院である

所在地	病院名	新公立病院改革プラン にかかると補足調査対象	対象病院 公的医療機関等2025プラン	特定機能病院	地域医療支援病院	社会医療法人開設病院	公的医療機関等	府立病院機構	在宅療養後方支援病院	がん診療拠点病院	三次救急医療機関	災害拠点病院	特定診療災害医療センター	周産期母子医療センター	感染症指定医療機関	結核病床を有する病院	エイズ治療拠点病院	
1 堺区	耳原総合病院		○		○	○			○	○								
2 中区	ベルランド総合病院		○		○	○				○				○				
3 西区	堺市立総合医療センター	○			○		○			□	○	○			○			○
4 西区	社会医療法人ペガサス馬場記念病院		○		○	○			○									
5 北区	独立行政法人労働者健康安全機構大阪労災病院		○		○		○			□								
6 北区	独立行政法人国立病院機構近畿中央呼吸器センター		○				○			○								○
合計		1	5	0	5	3	3	0	2	5	1	1	0	1	1	1		2



2021年10月末時点
【対象病院数38の内訳】
公立病院：1
公的病院：5
民間等病院：32

※ 「がん診療拠点病院」の□印は「地域がん診療連携拠点病院(国指定)」、○印は「大阪府がん診療拠点病院(府指定)」を示す。

※ 「周産期母子医療センター」の○印は「地域周産期母子医療センター」を示す。

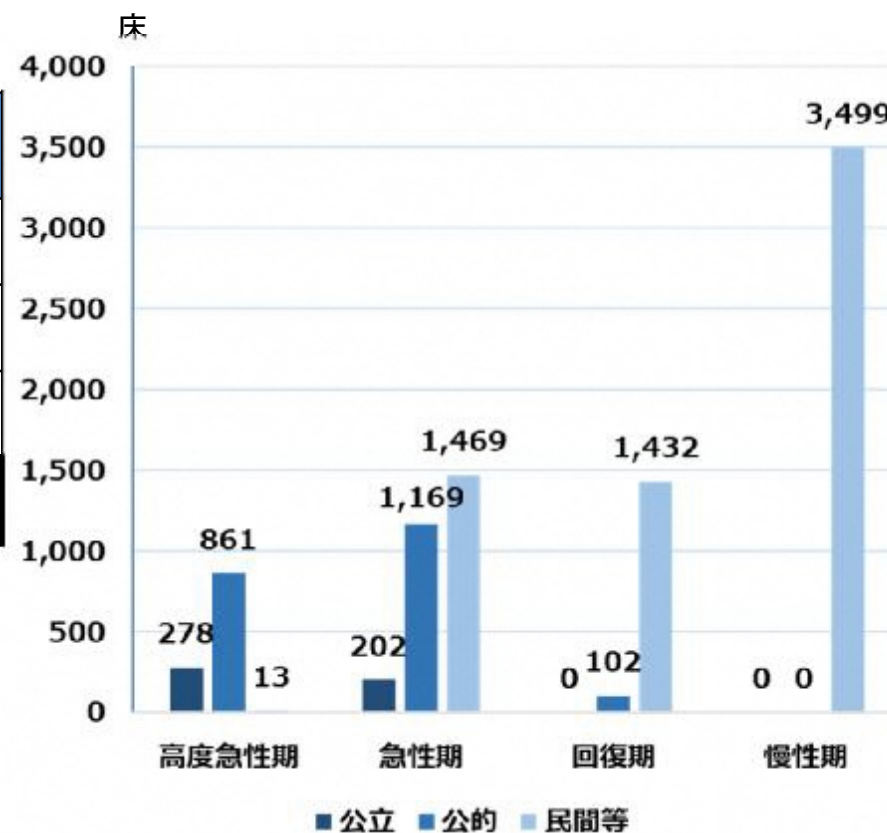
1 堺市二次医療圏の概要(2) 医療体制の概要②(病床機能別実態)

急性期・回復期・慢性期において、
民間病院等が有する病床数が多い

● 病院プラン調査等提出

公立・公的・民間等	対象病院数	提出病院数	提出率
公立	1	1	100%
公的	5	5	100%
民間等	32	32	100%
合計	38	38	100%

● 病床機能別病床数

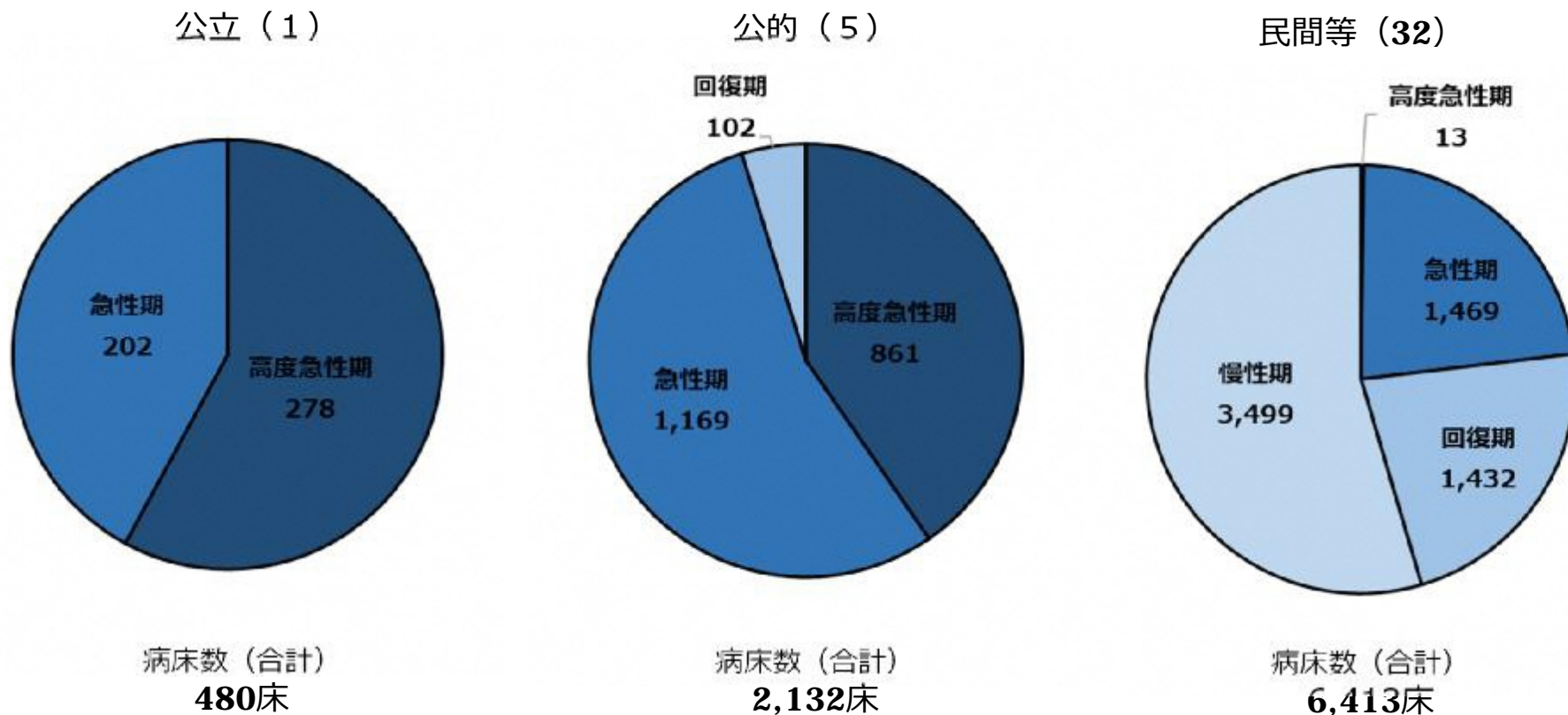


参照：2021年度病院プラン調査等（速報値:12月24日現在）

1 堺市二次医療圏の概要(2) 医療体制の概要③(公民別病床機能)

公立・公的・民間等、それぞれにおいて有する
病床機能の割合は異なっている

●公民別病床数の病床機能別割合(病院プラン等提出38病院(公立1、公的5、民間等32))



参照：2021年度病院プラン調査等（速報値:12月24日現在）

1 堺市二次医療圏の概要(2) 医療体制の概要④(公民別病床機能)

●【参考】所管内別病床機能別割合

病床機能別病床数【令和3年7月時点】(堺市)

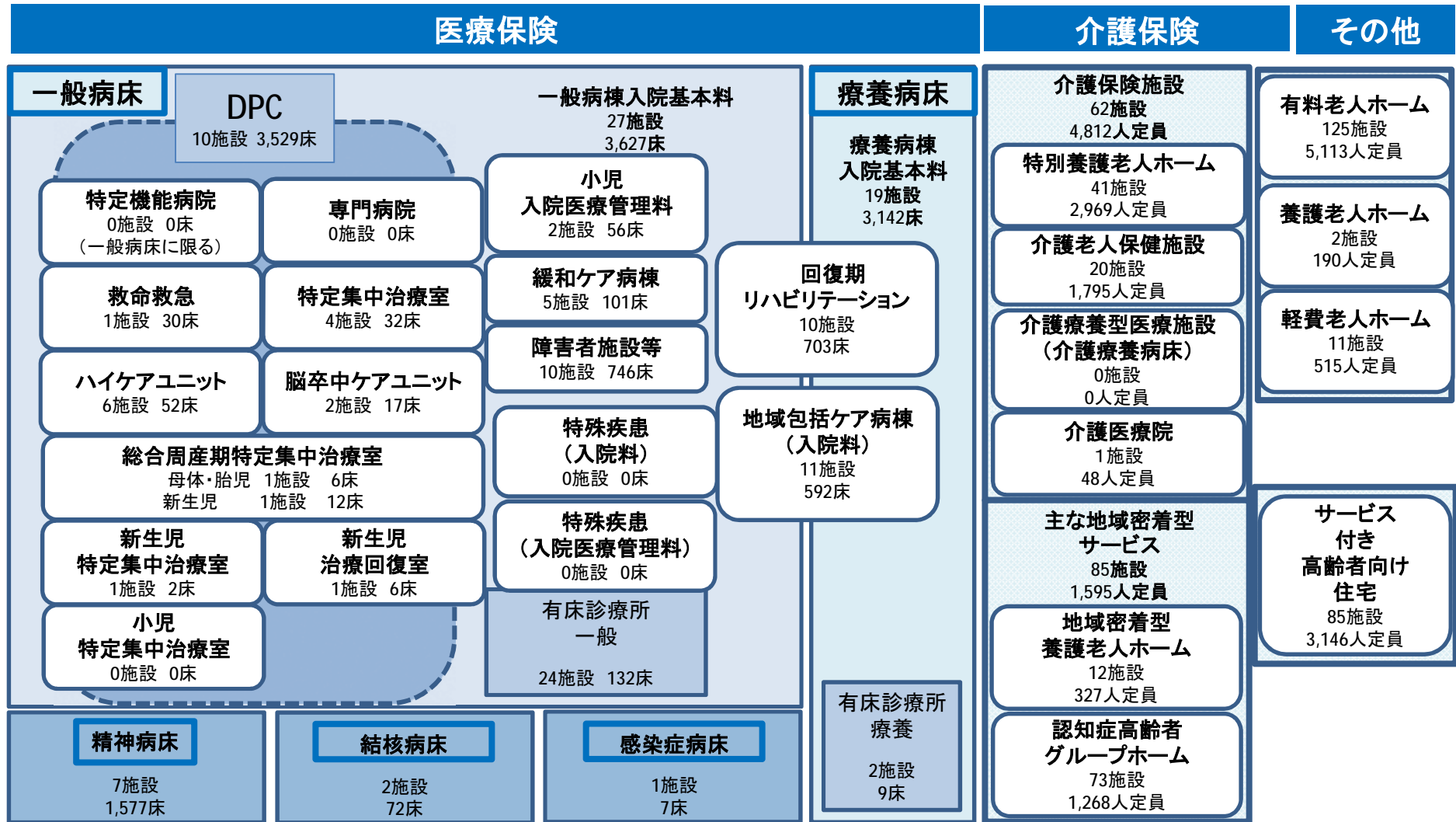
	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
公立	278	202	0	0	480
公的	861	1,169	102	0	2,132
民間等	13	1,469	1,432	3,499	6,413
計	1,152	2,840	1,534	3,499	9,025

病床機能別割合【令和3年7月時点】(堺市)

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
公立	57.9%	42.1%	0.0%	0.0%	100%
公的	40.4%	54.8%	4.8%	0.0%	100%
民間等	0.2%	22.9%	22.3%	54.6%	100%
計	12.8%	31.5%	17.0%	38.8%	100%

1 堺市二次医療圏の概要(2) 医療体制の概要⑤(医療介護提供体制)

医療・介護提供体制は、多くの機能・施設から構成されている



出典 医療保険」病床機能報告(2020年7月1日時点)ただし、次項目は右記のとおり、精神病床・結核病床・感染症病床(大阪府健康医療部資料(2021年10月31日時点))

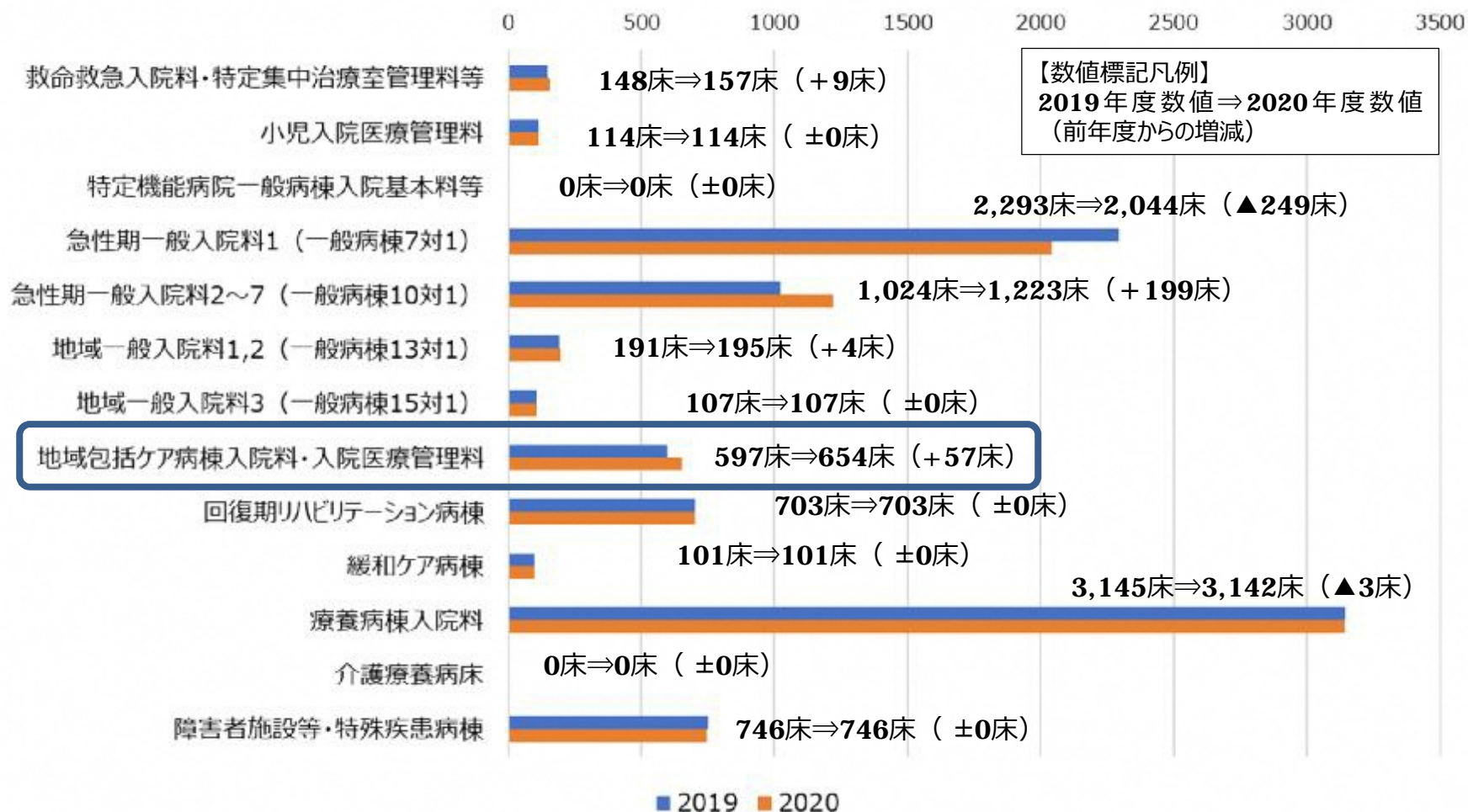
「介護保険・その他」大阪府福祉部資料(認知症高齢者グループホームの施設数は2021年4月1日時点、定員数は2020年3月31日時点、

有料老人ホームは2021年10月1日時点、サービス付き高齢者住宅は2021年4月30日時点、その他施設は2021年4月1日時点)

1 堺市二次医療圏の概要(2) 医療体制の概要⑥ (入院料別の経年変化)

地域包括ケア病棟の報告病床数は、増加傾向である

●入院料別報告病床数の推移



① 堺市二次医療圏の概要(2) 医療体制の概要⑦(転換補助金)

「病床転換等促進事業補助金」については、
堺市二次医療圏において3病院に対し、交付実績がある

病床転換等促進事業補助金（実績）

大阪府全体

	補助金交付病院数			補助金交付病床数		
		(内) 病床転換完了	(内) 公立・公的病院		(内) 病床転換完了	(内) 公立・公的病院
2015年	3	3	3	119	119	119
2016年	5	3	0	103	63	0
2017年	7	5	2	303	125	41
2018年	7	6	0	315	285	0
2019年	8	4	1	256	44	6
2020年	6	5	0	262	154	0
合計	36	26	6	1358	790	166

堺市

	補助金交付病院数			補助金交付病床数		
		(内) 病床転換完了	(内) 公立・公的病院		(内) 病床転換完了	(内) 公立・公的病院
2015年	0	0	0	0	0	0
2016年	0	0	0	0	0	0
2017年	1	0	0	158	0	0
2018年	1	1	0	158	158	0
2019年	1	0	0	0	0	0
2020年	0	0	0	0	0	0
合計	3	1	0	316	158	0

1 堺市二次医療圏の概要 (3) 病床機能分化の状況

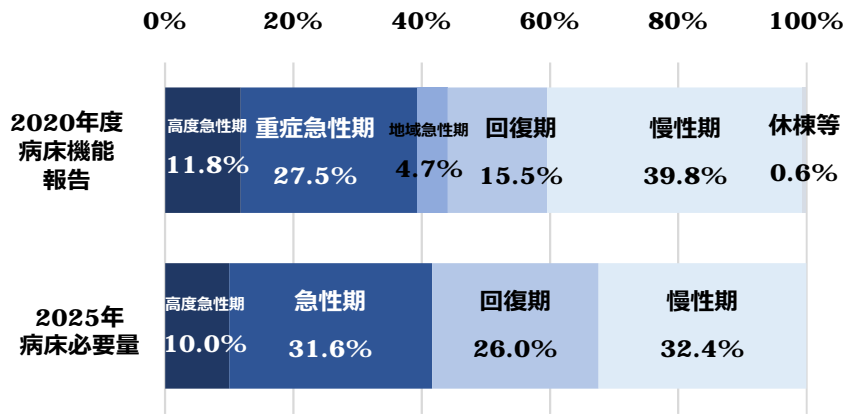
回復期機能の報告が年々増加し、転換が必要な割合は、約6%となった

● 病床機能報告と病床数の必要量の比較

区分	年度	高度急性期	急性期	急性期			回復期	慢性期	休棟等	未報告等	合計
				重症急性期	急性期(不明)	地域急性期					
病床数の必要量	2013	861	2,529				1,959	3,947			9,296
病床機能報告	2014	804	3,449				971	3,793	67	472	9,556
病床機能報告	2015	652	3,625				742	3,952	54	528	9,553
病床機能報告	2016	679	3,560				845	4,003	123	256	9,466
病床機能報告	2017	702	3,372	2,547	0	825	963	4,063	221	12	9,333
病床機能報告	2018	1,093	3,200	1,829	28	1,343	1,151	3,871	59	10	9,384
病床機能報告	2019	1,093	3,053	2,605	0	448	1,390	3,758	70	29	9,393
病床機能報告	2020	1,106	3,018	2,575	0	443	1,456	3,727	58	0	9,365
病床数の必要量【既存病床数内】	2025	938	2,961				2,434	3,031			9,365
病床数の必要量【オリジナル】	2025	991	3,128				2,571	3,202			9,892

● 病床機能報告 (2020年度) と病床数の必要量 (2025年) の割合の比較

区分	年度	高度急性期	急性期	急性期			回復期	慢性期	休棟等
				重症急性期	急性期(不明)	地域急性期			
病床機能報告	2019	11.7%		27.8%	0.0%	4.8%	14.8%	40.1%	0.7%
病床機能報告	2020	11.8%		27.5%	0.0%	4.7%	15.5%	39.8%	0.6%
病床数の必要量	2025	10.0%	31.6%				26.0%	32.4%	



サブアキュート・ポスト アキュート・リハビリ機能の現状と将来の予測

① 病床機能報告 (地域急性期 + 回復期)

2019年度 (暫定)	19.6%
2020年度 (最終)	20.2%

② 病床数の必要量 (回復期)

26.0%

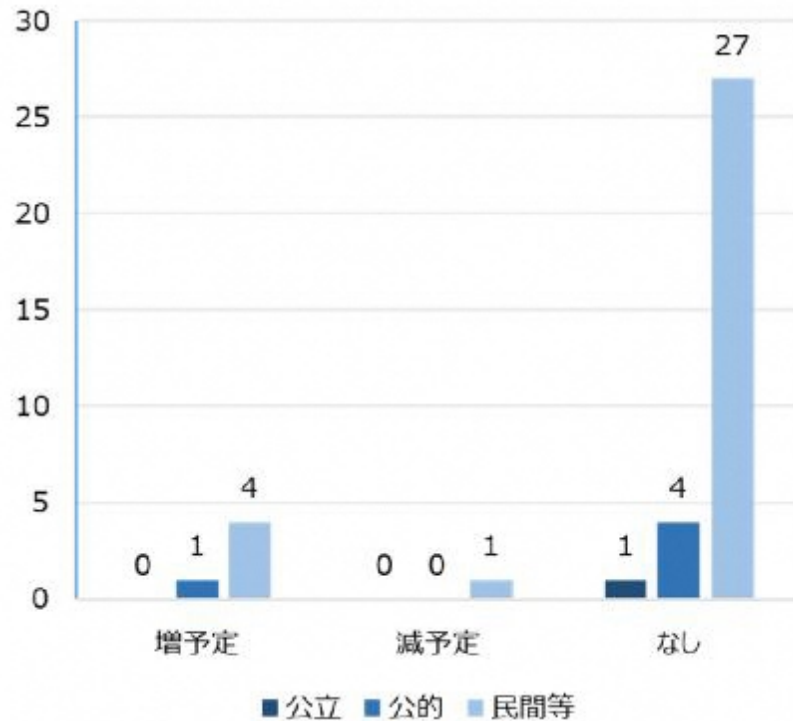
割合の差
5.8%
(約500床)

出典 病床機能報告

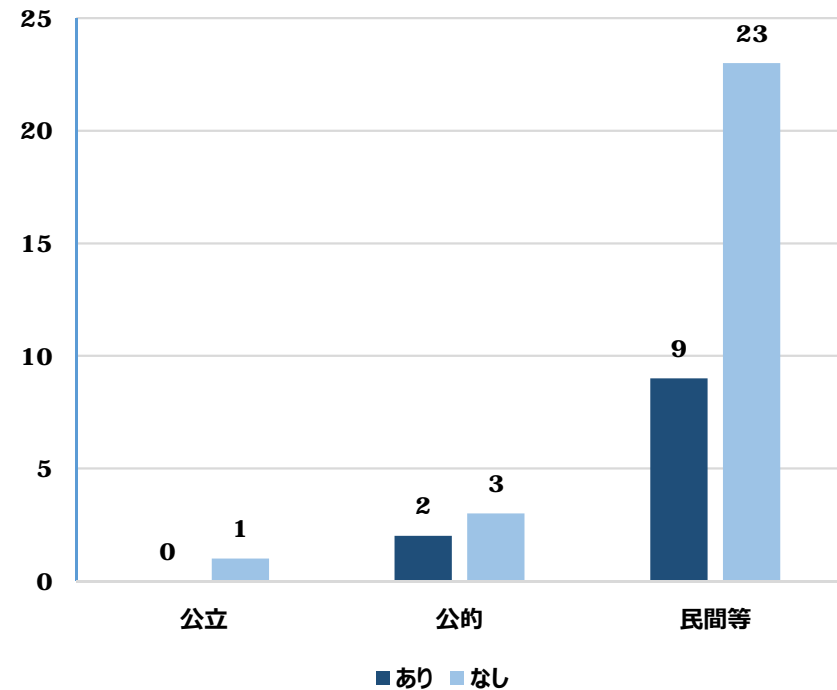
② 将来のあるべき医療体制に向けて (1) 2025年に各病院が検討している医療機能・病床機能①

約3割の医療機関が、10年以内の建て替えを検討している

● 2025年に向けた診療科の見直しの予定の有無



● 建て替えの検討の有無



2 将来のあるべき医療体制に向けて

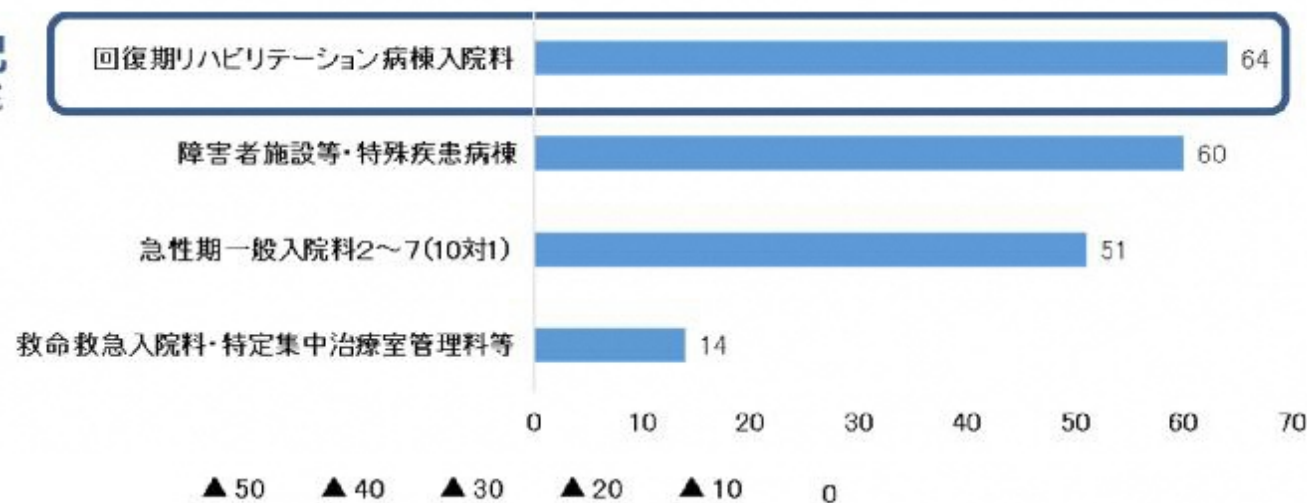
(1) 2025年に各病院が検討している医療機能・病床機能②

回復期機能を担う病床への転換については、回復期リハビリテーション病棟入院料は増加しているものの、地域包括ケア病棟入院料・入院医療管理料が減少している

●入院料別の検討状況※

※2025年に向けた検討状況

各病院の2025年に検討している入院料別（病床機能別）病床数総計から各病院の現在の入院料別（病床機能別）病床数の総計を差し引いて算出



●公立・公的・民間別の検討状況※

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
公立	0	0	0	0	0
公的	▲ 27	27	0	0	0
民間等	0	51	39	▲ 3	87
計	▲ 27	78	39	▲ 3	87

参照：2021年度病院プラン調査等（速報値：12月24日現在） 13

5 将来のあるべき医療体制に向けて

(2) 2025年に各病院が検討している病床機能のまとめ

○各病院が検討している病床機能等の変更は、構想がめざす病床機能分化の方向性と概ね一致して進んできているが、回復期機能を担う病床への転換については、回復期リハビリテーション病棟入院料は増加しているものの、地域包括ケア病棟入院料・入院医療管理料が減少している